

564. 9-N777ㄅ



1200500746804

49
77

日本製鐵株式會社事業概要

同社編



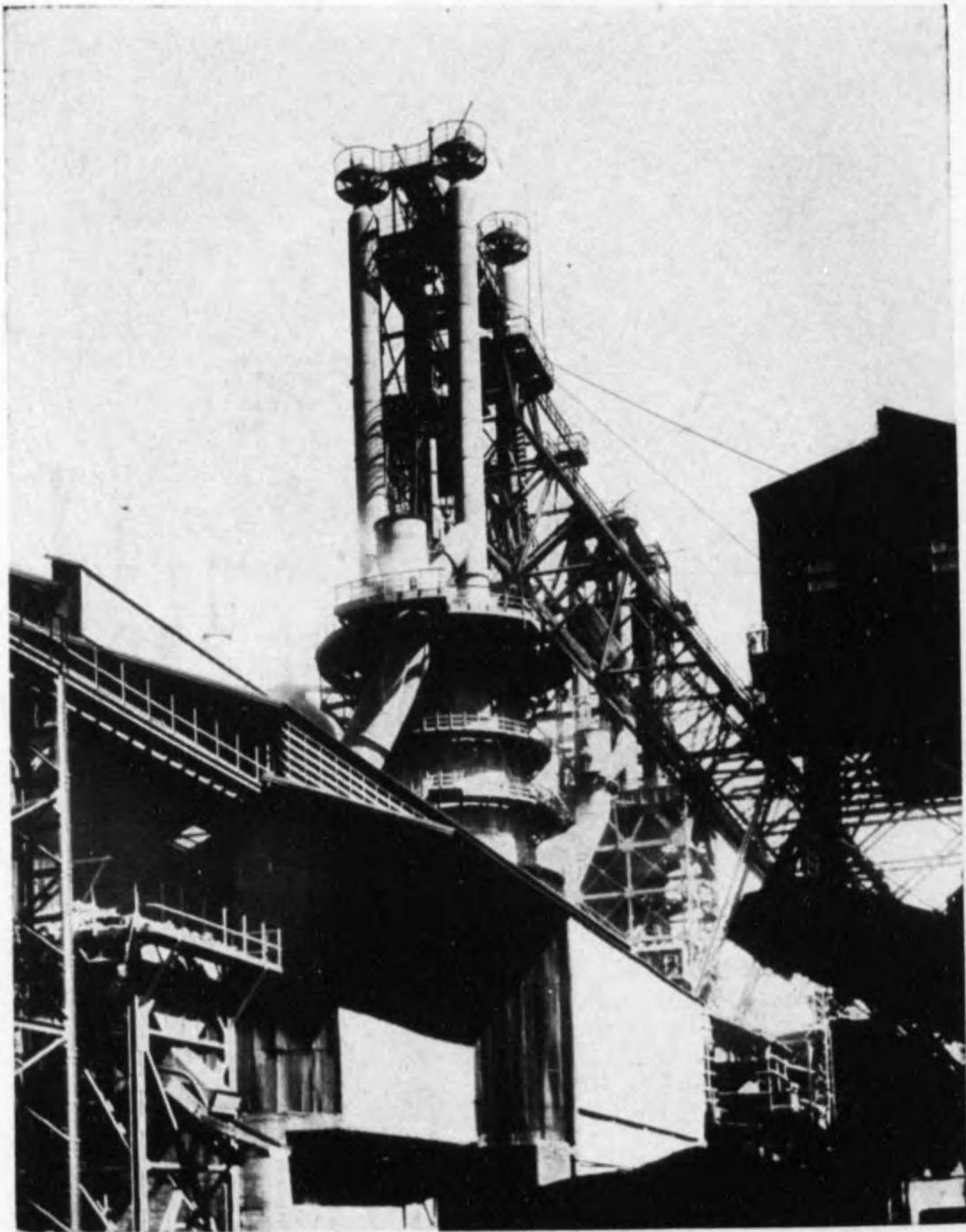
始



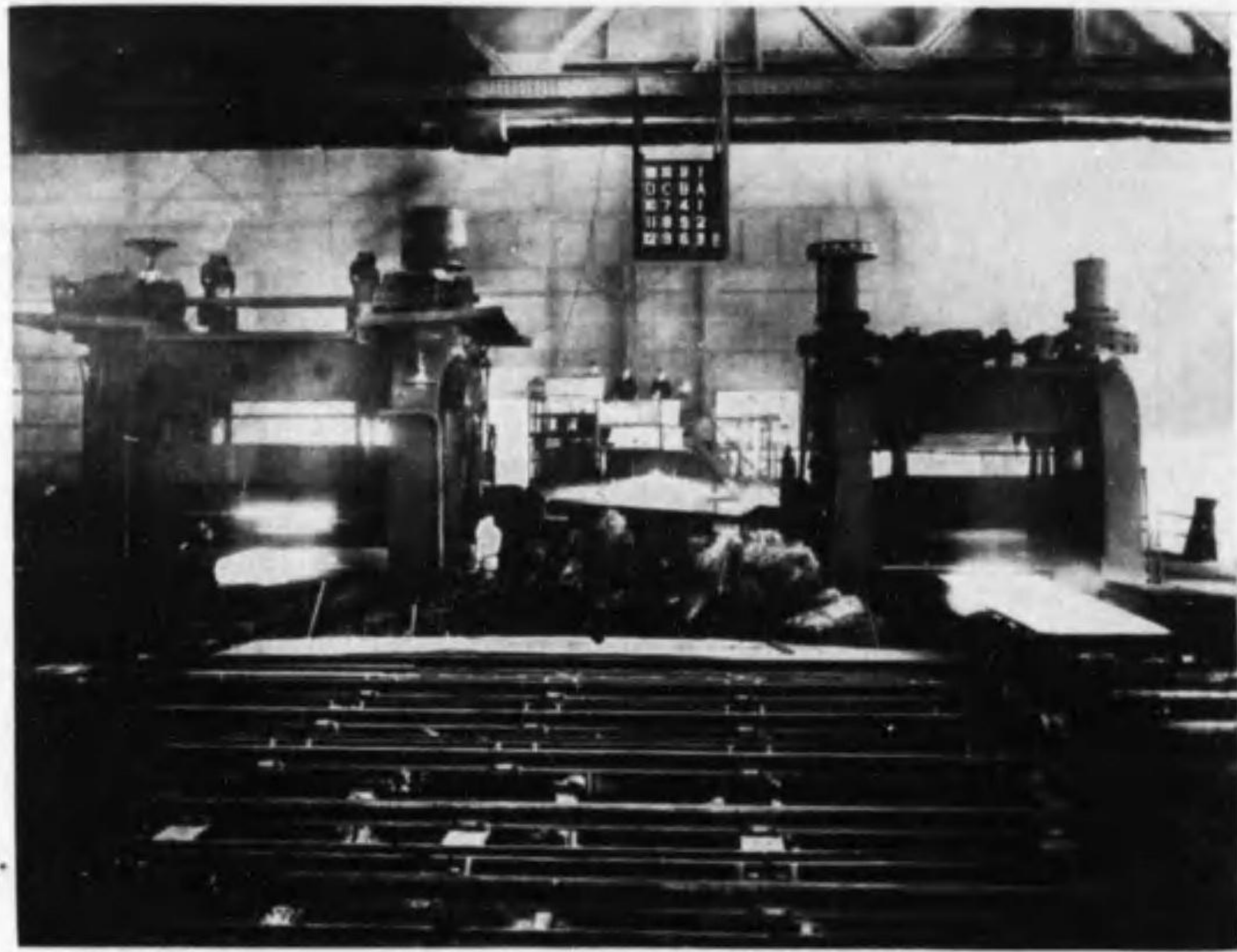
日本製鐵株式會社事業概要

564.9
N777

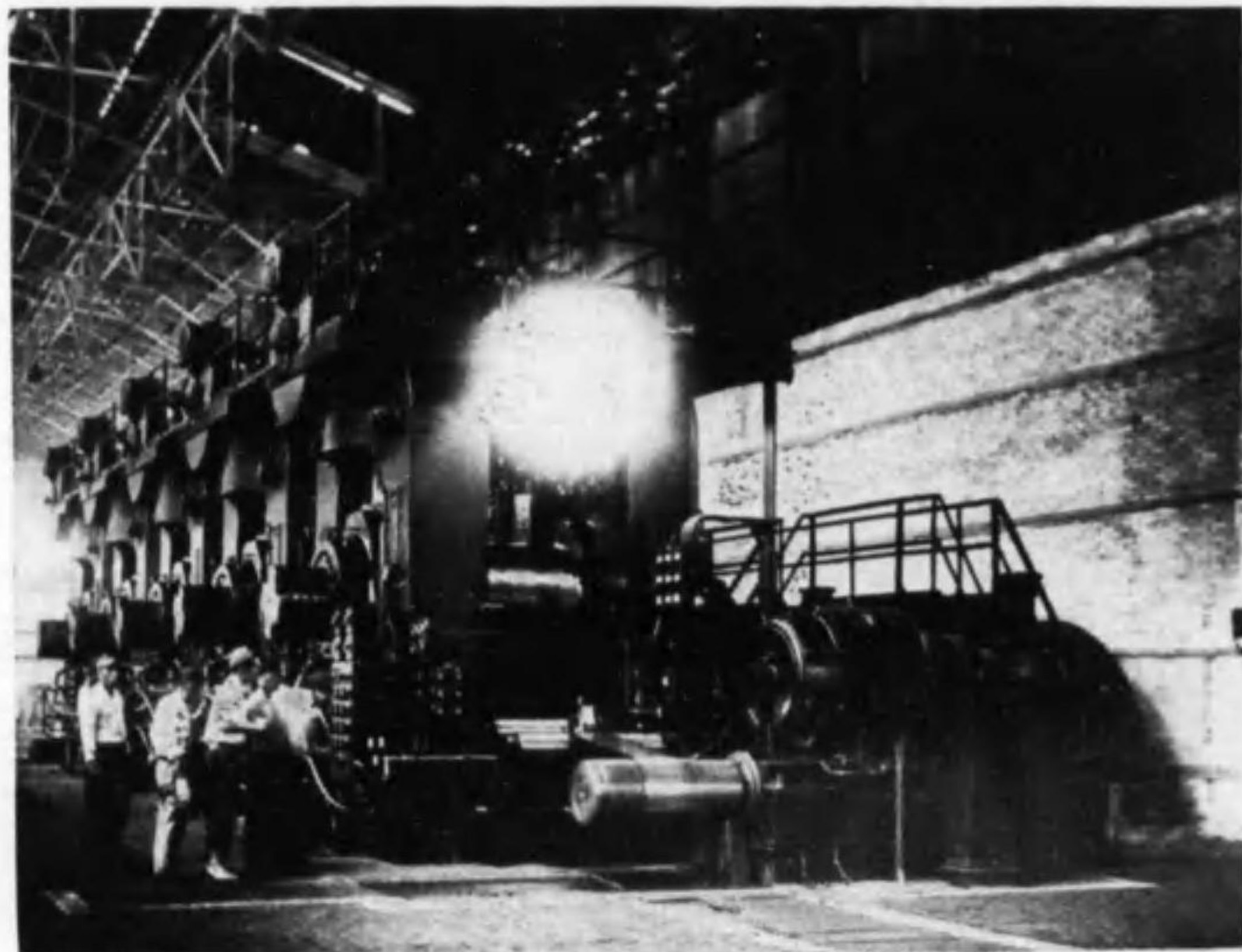
584.9
W777



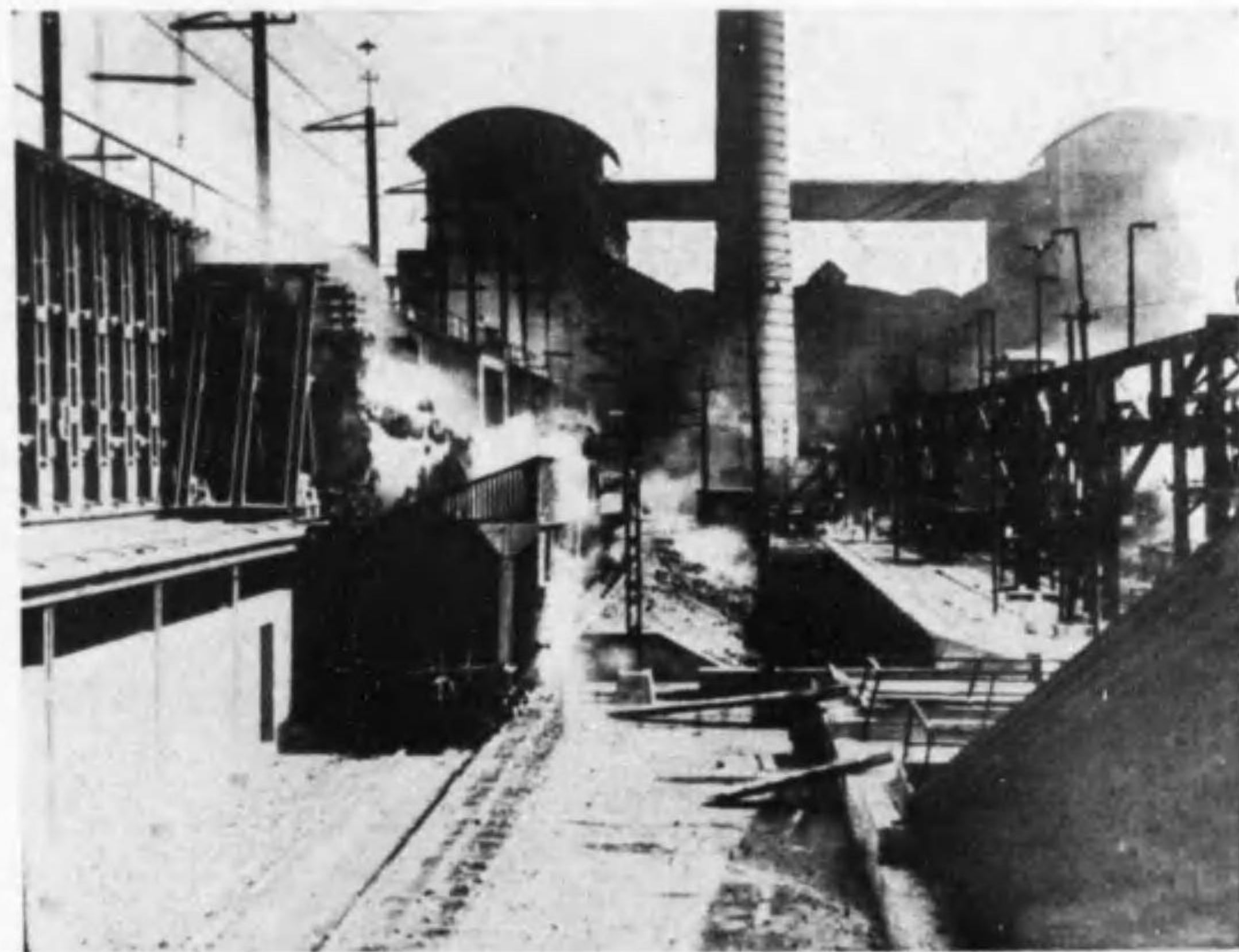
(濟閱檢部令可塞要關下) 爐 鑄 熔



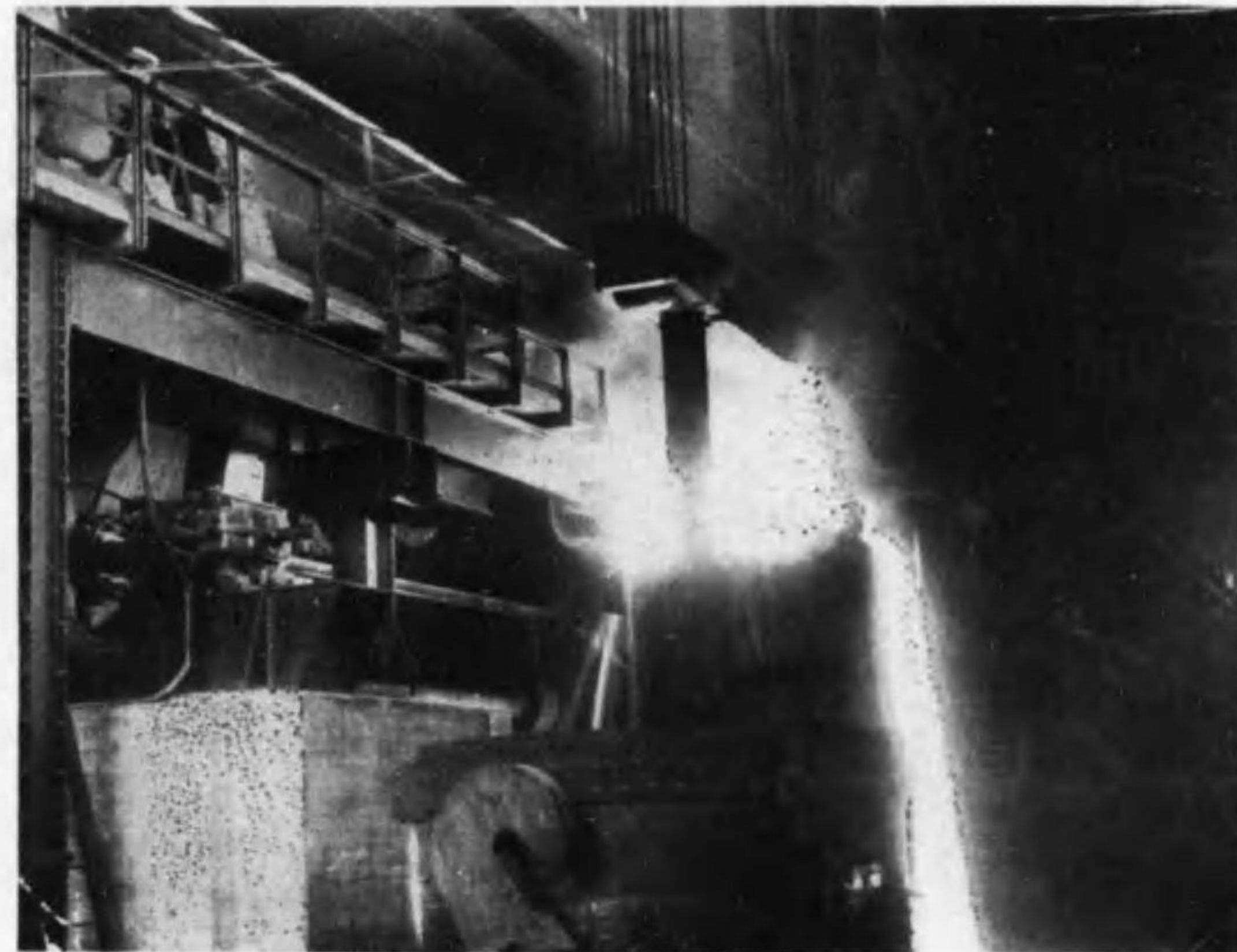
(済聞検部令司塞要關下) 場工板厚造製材銅



(済聞検部令司塞要關下) 場工プツリトス造製材綱



(済聞検部令司塞要關下) 爐スクーコ



(済聞検部令司塞要關下) 爐平場工綱製

日本製鐵株式會社事業概要目次

一、總說	(一)
二、組織	(三)
三、位置	(五)
四、作業概要	(六)
五、作業工程	(六)
六、主要製品及副產物	(七)
七、本店及作業所	(七)
八、日鐵鑛業株式會社	(三)
九、關係主要會社	(三)
十、鐵鋼之統制機構	(三)



日本製鐵株式會社事業概要

(昭和十五年九月末日現在)

一、總 說

我國ノ製鐵事業ハ明治三十四年ノ八幡製鐵所創設以來官民ノ撓マザル努力ニヨツテ兎モ角モ國運ノ隆盛ニ
 伴ヒ漸次發展シテ來タガ、民間製鐵事業ノ多クハ歐洲大戰當時ノ新設擴張ニ係リ、設備ノ改善、資本ノ整理
 等十分デナク、而モソノ後襲來セル不況ニ累セラレテ合理化ヲ圖ル餘裕ナク、八幡製鐵所亦官營ノ爲メ、經
 營上種々ノ拘束ガアリ、本邦製鐵事業全體トシテノ統一的發展ヲ期スルコトガ出來ナカッタ。コノ情勢ヲ改
 善スルタメ政府ハ屢々調査委員會ヲ設ケ、斯業ノ確立振興ニ關スル根本方策ヲ議セシメタ處、之等調査委員
 會ハ尙レモ官民ノ製鐵事業ヲ打ツテ一丸トシタ合同會社ヲ創リ、ソノ統制力ト堅實ナル資力トニ依ツテ斯業
 ノ徹底的合理化ヲ圖ル外方策ナイ旨答申シタ結果、昭和八年春日本製鐵株式會社法ノ公布トナリ、同九年一
 月二十九日愈々當會社ガ創立セラレタノデアアル。

即チ政府ヨリ福岡縣八幡市ニ於ケル官營ノ製鐵所工場及其ノ鑛山ヲ現物出資シ、ソレニ民間製鐵會社中五
 工場ノ現物出資ニヨツテ資本金參億四千五百九十四萬圓(內政府出資額貳億八千四百拾九萬五千圓)ノ當社
 ガ誕生シタ譯デアアル。尙創立後間モナク東洋製鐵株式會社ガ合同シ(資本金約壹千四百萬圓増)又二ヶ年後
 ノ昭和十一年春ニハ大阪製鐵株式會社ヲ讓リ受ケタ。

當社ハ營業開始ト共ニ四圍ノ狀勢ヨリ本邦鐵鋼業ニ於ケル製鉄、製鋼ノ跛行性ヲ是正シ以テ海外依存ヨリ

脱却シ可及的速ニ其ノ飛躍的擴充ヲ達成スルノ緊要ナルヲ認メ、直ニ増産計畫ヲ樹立シテ既設工場中ニ増産設備ヲ建設スル外敷地ヲ兵庫縣廣村及朝鮮ノ清津ニトシ新設工場ノ建設ニ着手、既ニソノ竣工セルモノヨリ逐次作業ヲ開始シ、着々増産ニ邁進シテ居ルガ現在當社ハ本邦ニ於ケル鉄鐵産額ノ約八五%、鋼材産額ノ約四〇%ヲ産出シテ居ル。

是等ノ増産計畫遂行ニ要スル經費ハ社債及社内留保金ニ依ツテ之ヲ賄ツテ居ルガ、更ニ昭和十三年五月約壹億四千餘萬圓ヲ増資シテ資本金ヲ五億圓トシ生産擴充ノ速ナル具現ニ萬遺憾ナキヲ期シタ。

又斯様ニ急激ナル當社増産計畫ノ進行ニ即應シ所要原料ノ獲得ニ付テハ社有鑛山ノ増産計畫ヲ實行スルト共ニ炭山、鑛山ノ買収、鑛業會社ヘノ投資等積極的の方策ヲ講ジテ來タガ別項ノ如ク昭和十五年五月新ニ日鐵鑛業株式會社ヲ設立シテ、之ニ當社ノ鑛業設備一切ヲ現物出資シテ一意原料資源ノ確保ニ當ラシムルコト、シタ。

鐵鋼材ハ凡ユル生産手段ノ基礎材料デアルト同時ニ兵器ノ重要原料デアルガ故ニ當社ハ他面各社ト協力シ例ヘバ鋼材ニ付テハ輸入及國內諸原料、勞賃、運賃等生産費ノ昂騰ノ惡條件ニモ拘ラス今次日支事變勃發以來屢次ニ亘リ値下ゲヲ實行シ又配給方面ニ付テモ有機的統制ニ一段ノ努力ヲ拂フ等以テ無限ニ増大スル需要ニ對シ低廉圓滑ナル供給ヲ計ツテ居ル。

以上ノ如ク當社ハ夙ニ東洋ニ於ケル最大ノ製鐵會社トシテ平戰時ヲ問ハズ常ニ國策ノ大本ニ添ウテ銳意事業ノ遂行ニ當ツテ來タガ特ニ昭和十五年九月日獨伊三國條約ノ締結ニ依ツテ新タナル段階ニ入ツタ大東亞共榮圈ニ於ケル鐵鑛産業タル斯業ノ自給自足的態勢ヲ確立シ、アメリカノ屑鋼禁輸及今後加重セラルベキ舊秩序ヨリノ諸壓迫ニ當面シテモ微動ダモセヌコトヲ期シ一意邁進シテ居ルノデアル。

二、組織

一、役員ハ現在取締役十七名、監査役五名デ、取締役會長ハ取締役中ヨリ、社長ハ代表取締役中ヨリ選任セラレ、取締役會長ハ株主總會及取締役會ノ議長トナリ、社長ハ取締役會ノ決議ヲ執行シ社務ヲ總理シ、常務取締役ハ株主總會ニ於テ取締役中ヨリ選任セラレ社長ヲ補佐シテ社務ヲ掌理スル。又常任監査役ヲ置キ株主總會ニ於テ監査役中ヨリ選任セラレル。

現在役員ハ左ノ通りデアル。

取締役會長	平 生 三 郎
社 長	中 松 眞 郷
常務取締役	景 山 正 齊
同	澁 澤 正 雄
同	飯 田 九 州 雄
同	波 邊 義 介
取 締 役	井 上 匡 四 郎
同	米 山 辰 夫
同	吉 田 豐 彦
同	松 田 眞 治 郎
同	松 本 健 次 郎

四、作業概要

當社ニ於ケル作業概要ハ、八幡製鐵所ニ於テハ銑鋼一貫作業ニ依ツテ熱經濟ト作業ノ合理化ヲ圖ツテ居ルガ釜石、兼二浦兩製鐵所ニ於テモ作業ノ一部分ハ同様ノ作業ニ依ツテ居ル。輪西製鐵所ハ現在製銑作業ノミヲ行ツテ居リ、富士製鐵所、大阪製鐵所ニ於テハ屑鐵法ニ依ツテ單獨製鋼作業ヲ行ツテ居ル外、社内産出ノ鋼塊ノ融通ヲ受ケテ鋼材ノ壓延ヲ行ツテ居ル。目下輪西、廣畑、清津ニ於テハ夫々銑鋼一貫設備ヲ建設中デ既ニソノ一部分ハ出來上ツテ居リ、近キ將來之等増設工場モ銑鋼一貫作業ヲ開始スル運ビトナツテ居ル。

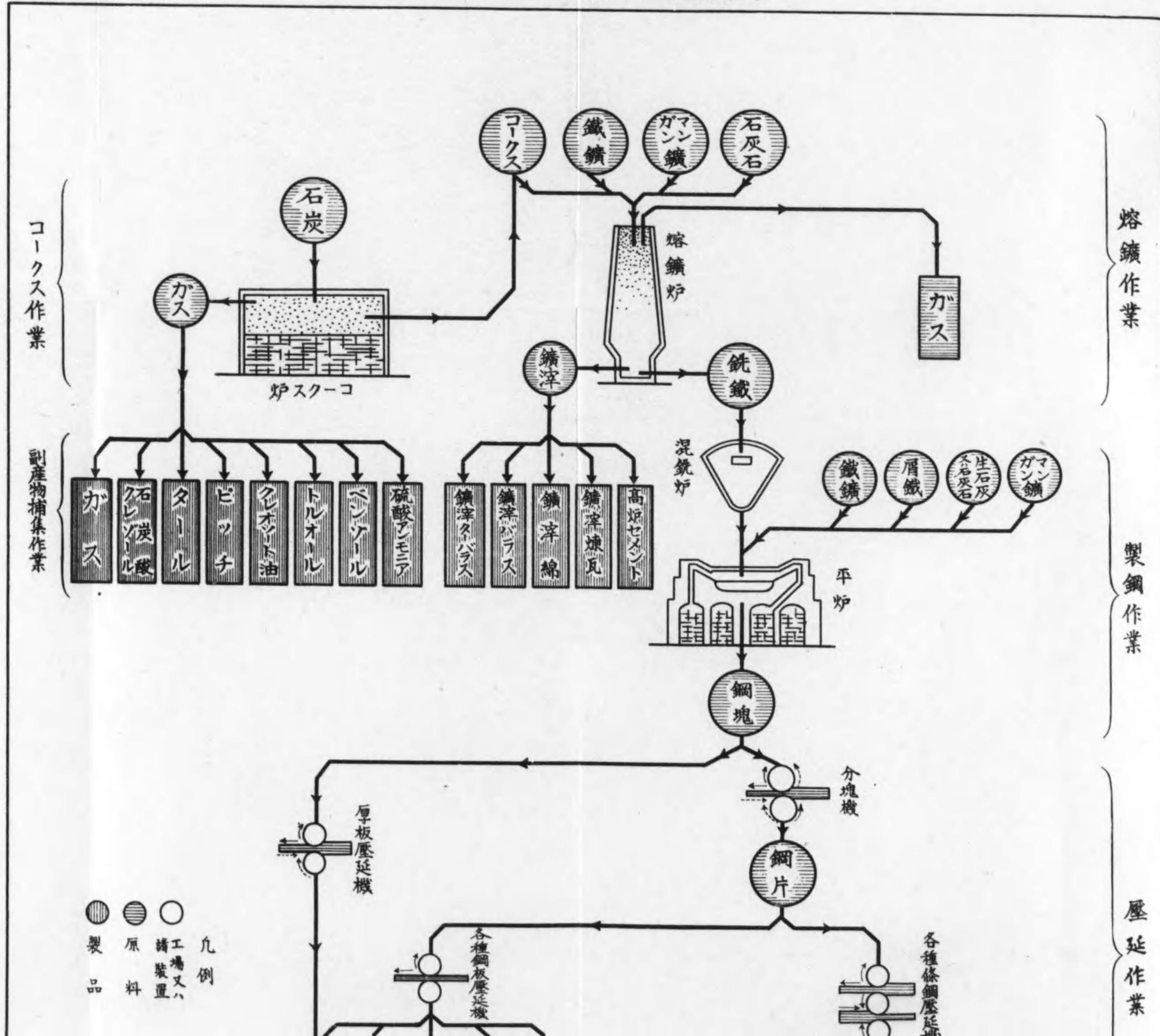
五、作業工程

當社ニ於ケル銑鋼一貫作業工程ヲ略述スレバ左ノ通りデアル。

- 一、鐵鑛石ヲ「コークス」、石灰石及「マンガン」鑛石ト共ニ熔鑛爐ニ入レ熱風ヲ送り加熱スルト鐵分ハ還元シテ約十三時間位デ銑鐵(ズク)トナリ夾雜物ハ鑛滓(ノロ)トナル。尙「コークス」ハ石炭ヲ「コークス」爐ニ入レ約二十時間蒸焼ニシテ造ル。
- 二、銑鐵ハ熔ケタママノモノヲ混銑爐ヲ經テ平爐ニ送り此處デ屑鐵ヤ鐵鑛石ヲ加ヘ「ガス」デ熱シ通常六七時間位精鍊シテ鋼ノ地金トナシ金型ニ注込ンデ鋼塊トスル。
- 三、鋼塊ハ赤熱シタモノヲ分塊工場デ壓延シ適當ノ太サニ截斷シテ鋼片トシ其ノ冷ヘナイ間ニ鋼材壓延工場(製品工場)ニ移シ壓延シテ「レール」ヤ鋼板其ノ他各種ノ鋼材ヲ造ルガ鋼板ヤ中小形ノ鋼材ヲ造ルニハ其ノ粗材ガ冷ヘ易イノデ概ネ鋼片ヲ再熱シテ壓延スル。

壓延作業

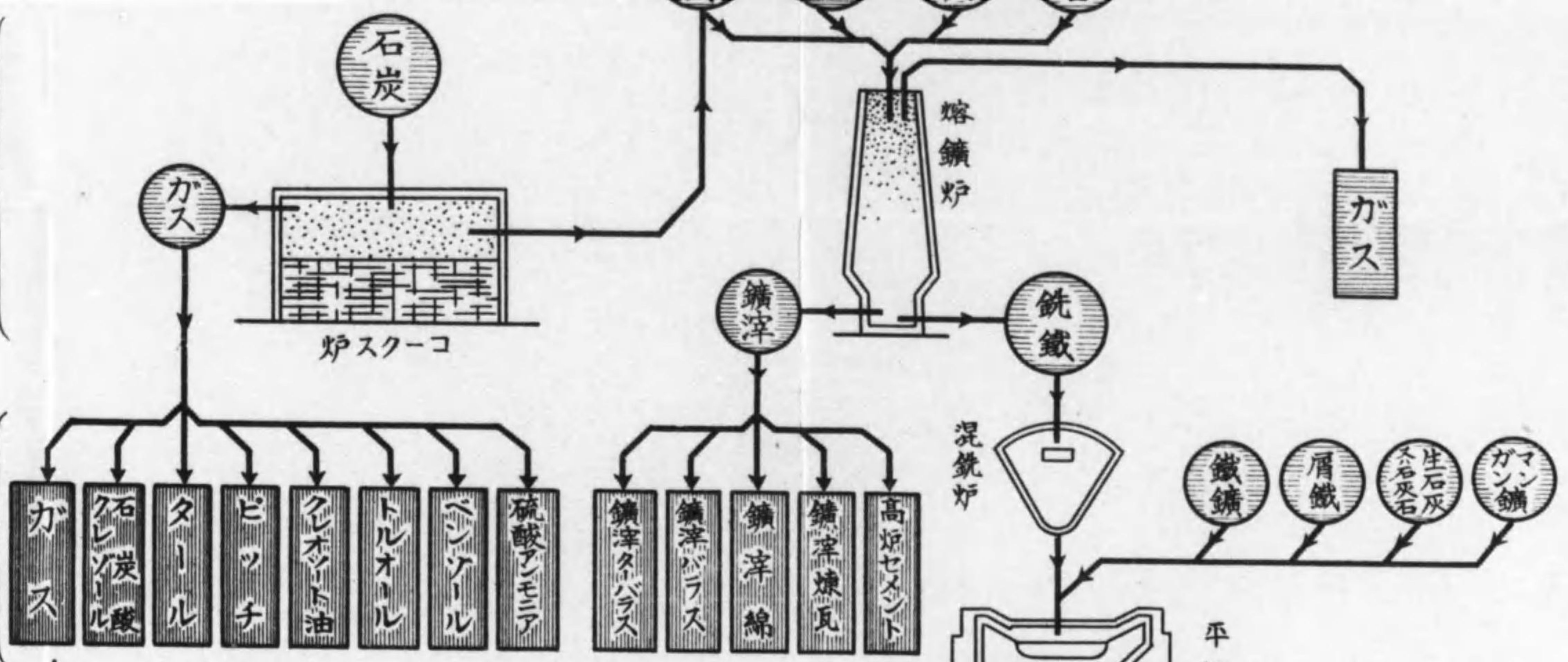
製鐵工業化工程圖



シテ約十三時間位デ銑鐵(ズク)トナリ夾雜物ハ鑛滓(ノロ)トナル。尙「コークス」ハ
 ス」爐ニ入レ約二十時間蒸焼ニシテ造ル。
 二、銑鐵ハ熔ケタママノモノヲ混鉄爐ヲ經テ平爐ニ送り此處デ屑鐵ヤ鐵鑛石ヲ加ヘ「ガス」
 七時間位精鍊シテ鋼ノ地金トナシ金型ニ注込デ鋼塊トスル。
 三、鋼塊ハ赤熱シタモノヲ分塊工場デ壓延シ適當ノ太サニ截斷シテ鋼片トシ其ノ冷ヘナイ間
 (製品工場)ニ移シ壓延シテ「ロール」ヤ鋼板其ノ他各種ノ鋼材ヲ造ルガ鋼板ヤ中小形ノ
 其ノ粗材ガ冷ヘ易イノデ概ネ鋼片ヲ再熱シテ壓延スル。

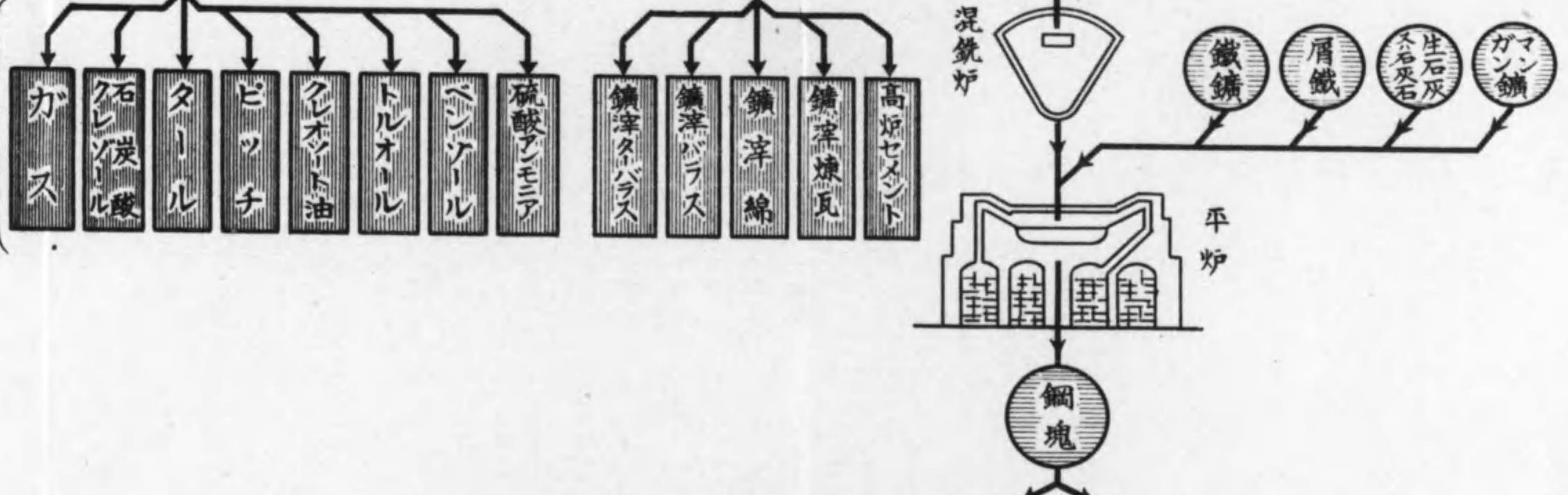
熔鑛作業

コークス作業

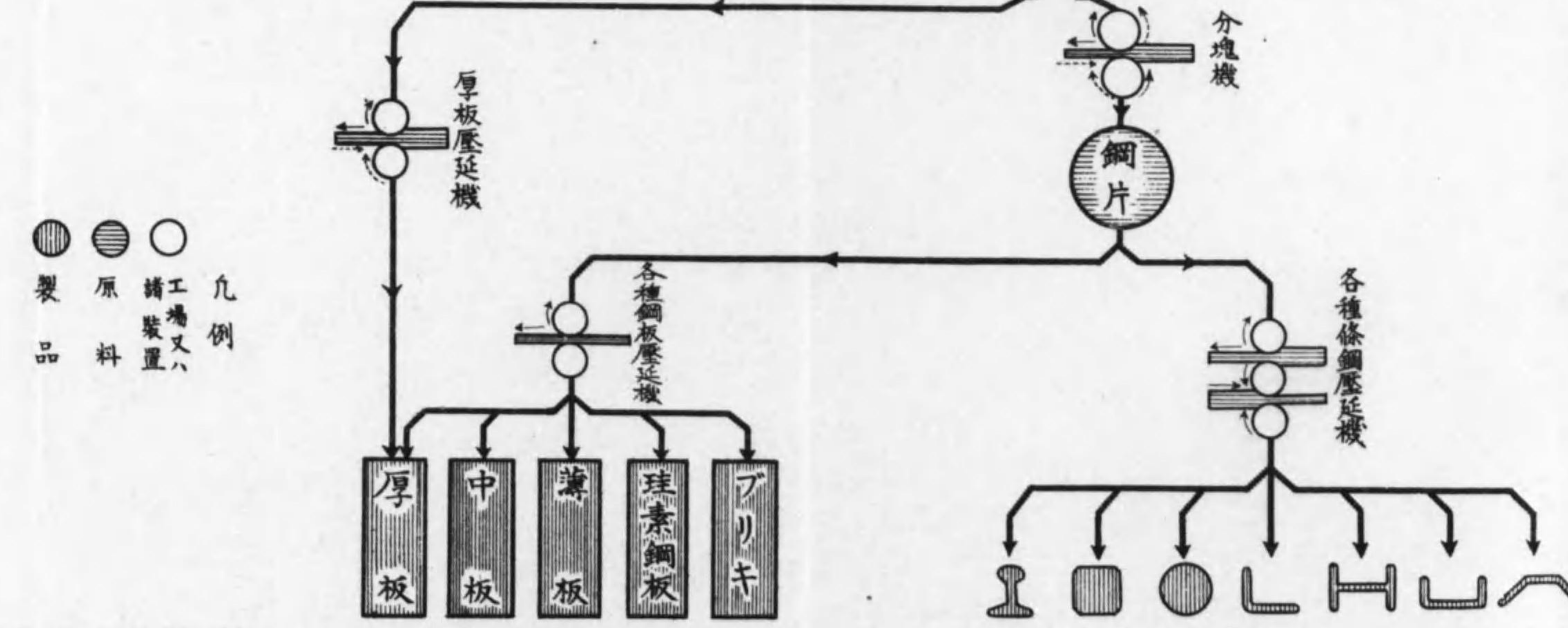


製鋼作業

副産物捕集作業



壓延作業



凡例
 ○ 工場又は
 諸装置
 ● 原料
 ● 製品

一、コークス
 二、銑鐵ハ熔ケタママノモノヲ混銑爐ヲ經テ平爐ニ送り此處デ屑鐵ヤ鐵鑛石ヲ加ヘ「ガス」ヲ熱シ通常六
 七時間位精鍊シテ鋼ノ地金トナシ金型ニ注込シテ鋼塊トスル。
 三、鋼塊ハ赤熱シタモノヲ分塊工場デ壓延シ適當ノ太サニ截斷シテ鋼片トシ其ノ冷ヘナイ間ニ鋼材壓延工場
 (製品工場)ニ移シ壓延シテ「レール」ヤ鋼板其ノ他各種ノ鋼材ヲ造ルガ鋼板ヤ中小形ノ鋼材ヲ造ルニハ
 其ノ粗材ガ冷ヘ易イノデ概ネ鋼片ヲ再熱シテ壓延スル。

四、鉄鐵ヲ造ル時ニ出來ル鑛滓カラハ高爐「セメント」、鑛滓煉瓦、鑛滓「ガラス」、鑛滓綿ヲ造リ熔鑛爐カラ出ル「ガス」ハ洗滌シテ工場内各種ノ燃料ニ供スル。
五、「コークス爐ガス」カラハ硫酸「アンモニア」、「ベンゾール」、「クレオソート」油其ノ他種々ノ副産物ヲ造リ「ガス」ハ各種ノ燃料ニ使用スル。

六、主要製品及副産物

主要製品

鉄鐵及フェロアロイ 製鋼用鉄、鑄物用鉄、低磷鉄及フェロアロイ
鋼塊 普通鋼々塊、特殊鋼々塊
鋼材 棒鋼、形鋼、軌條類、厚板、中板、薄板、ブリキ、珪素鋼板、美裝鋼板、線材、帶鋼、
外輪、鍛鋼品、鑄鋼品其ノ他ノ普通鋼々材及特殊鋼々材

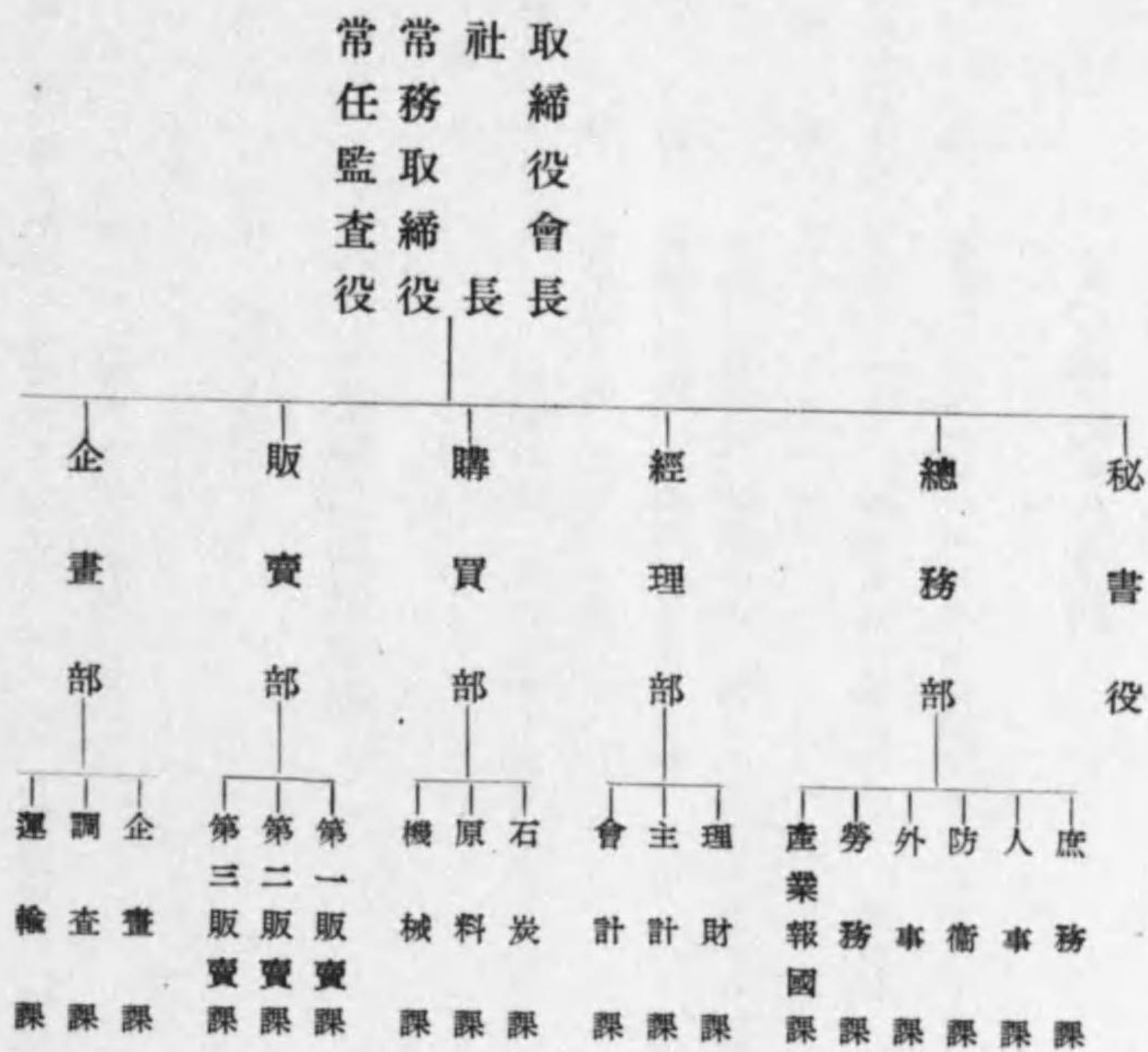
副産物

熔鑛爐副産物 高爐セメント、鑛滓煉瓦、鑛滓ガラス、鑛滓綿
コークス爐副産物 硫酸アンモニア、ベンゾール類、クレオソート油、タール、ピッチ、其他

七、本店及作業所

本店

東京ニ本店ヲ置キ當社事務ノ統括ヲ圖ツテ居ル。



八幡製鐵所



一、沿革 明治二十九年春製鐵所官制發布セラレ、同三十四年二月作業開始、爾後官營ノ下ニ設備ノ擴張改良ヲ圖リ名實共ニ我國製鐵業ノ根幹ヲ爲シテ來タガ同所へ以前ヨリ委任經營サレテ居タ左記ニ製鐵會社

一、九州製鋼株式會社(西八幡工場)

大正六年創立昭和三年秋ヨリ製鐵所ニ於テ同工場ヲ借受ケ作業中デアツタモノ

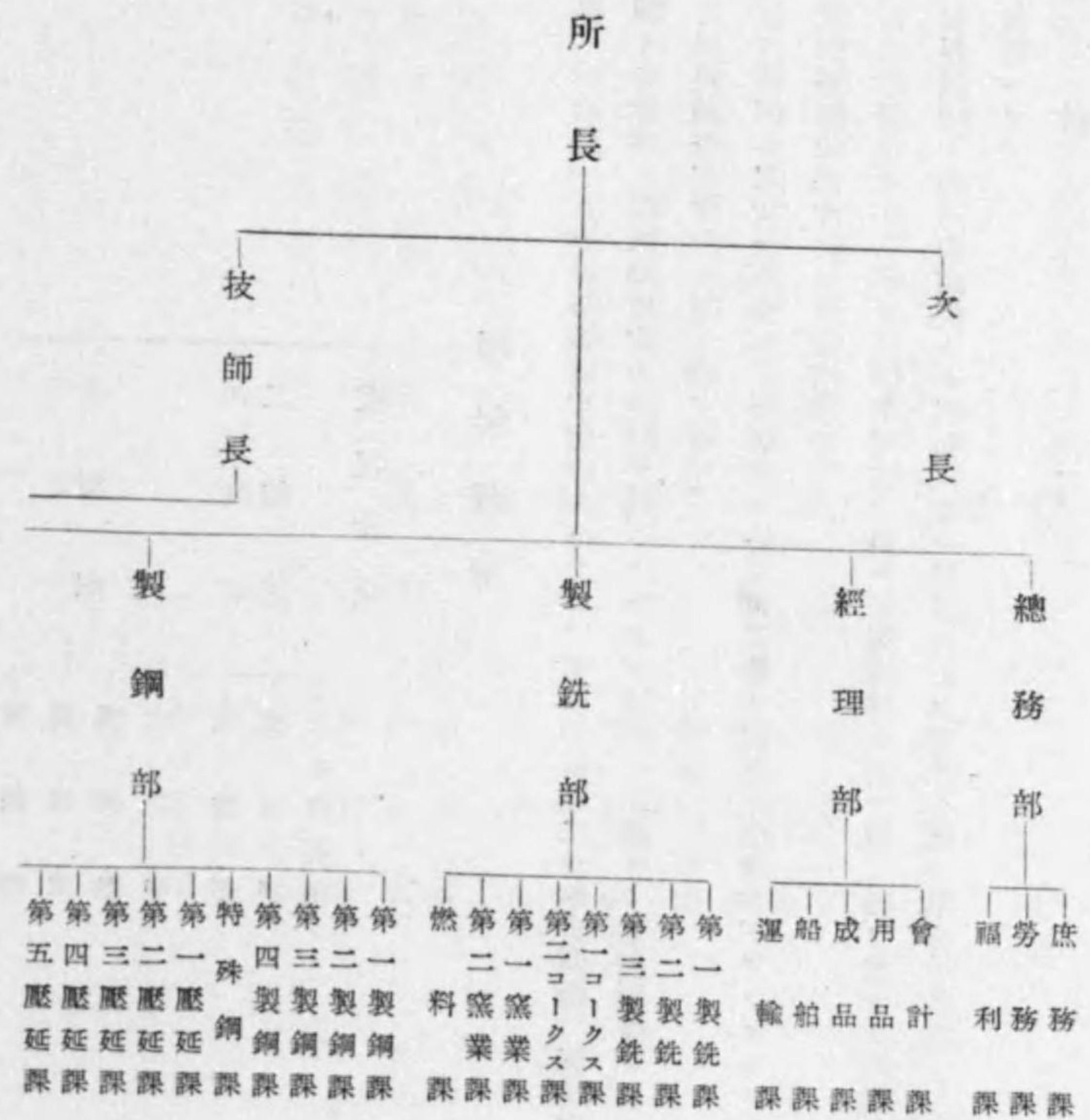
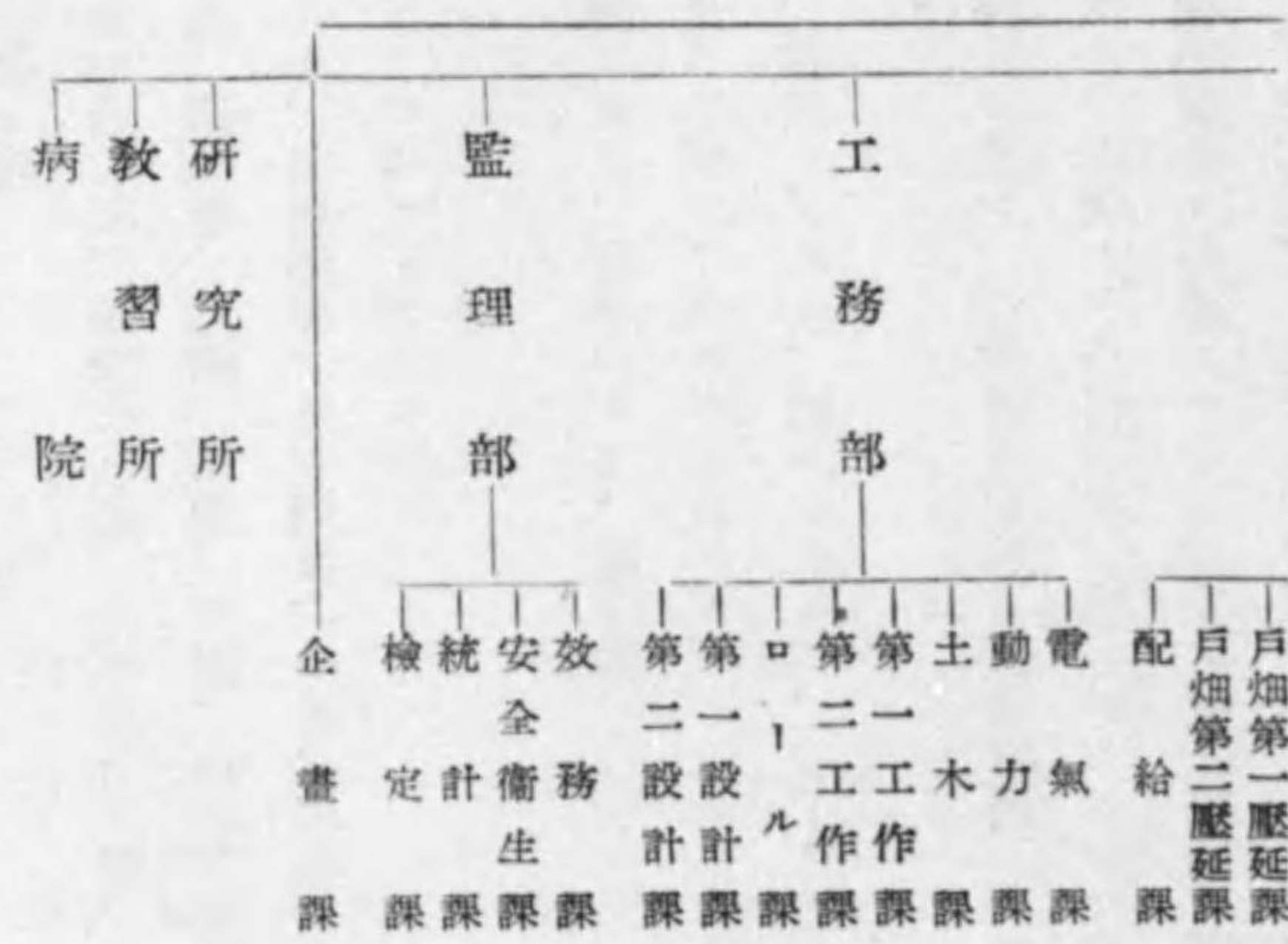
一、東洋製鐵株式會社(戸畑作業所)

大正六年創立大正八年五月作業開始、同十年製鐵所ニ於テ同工場ヲ借受ケ作業中デアツタモノ

ヲモ本製鐵所ト共ニ相前後シテ昭和九年一月設立シタ當社へ現物出資シ是等ノ工場全部ヲ併セテ八幡製鐵所ト改稱シタ。

二、組織

三、作業概要 當所ノ設備ハ熔鑄爐、平爐、電氣爐、鋼材壓延機等相當基數ヲ有スル規模ノ下ニソレニ附帶セル諸々ノ設備ガアリ、銑鋼一貫作業ヲ大規模ニ行ツテ居ル世界有數ノ製鐵工場デアル。當所ハ鋼管ノ製造ヲ除ク普通壓延鋼材ノ殆ンド全品種及相當量ノ副産物ヲ産出シテ居ル。



四、主要製品及副産物

(イ) 主要製品

鉄 鑄 製鋼用鉄、鑄物用鉄

鋼 塊 普通鋼々塊、合金鋼々塊

鋼 材 軌條(各種)、軌條用繼目板、等邊山形鋼、不等邊山形鋼、工形鋼、溝形鋼、丁形鋼、球山形鋼、乙形鋼、鋼矢板、丸鋼、角鋼、平鋼、線材、厚板、ユニバーサル平鋼、

中板、薄板、ブリキ、美裝鋼板、珪素鋼板、外輪、車軸、鍛鋼品、各種合金鋼々材、

ボールト、ナット、リベット、スパイキ

(ロ) 副産物

熔鑄爐副産物 高爐セメント、鑄滓煉瓦、鑄滓ガラス、鑄滓綿

副産物

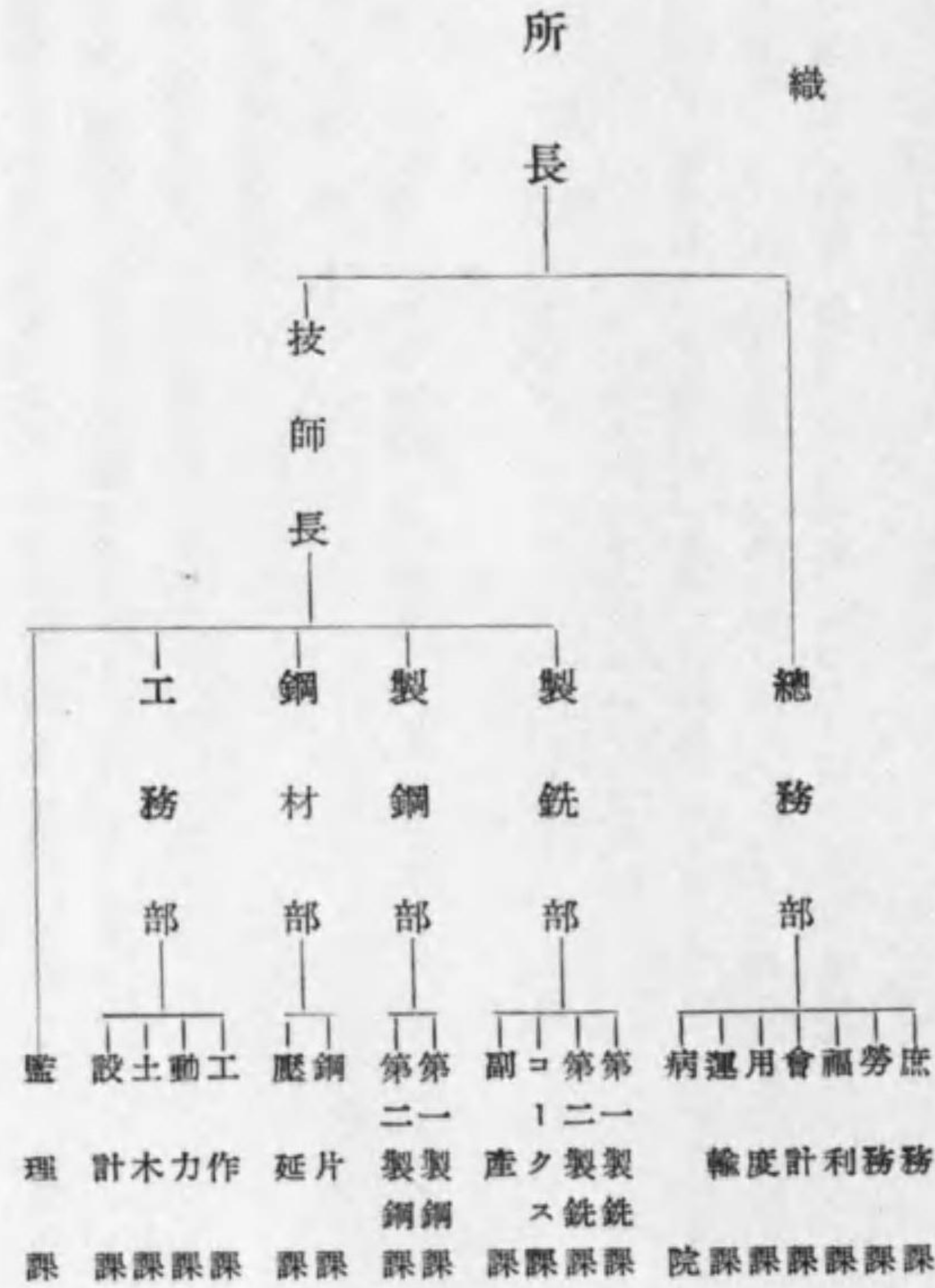
硫酸、アンモニア、ピッチ、ピッチコークス、ナフタリン、クレオソート油、石炭酸、クレゾール、純ベンゾール、純トルオール、モーターベンゾール、ソルベントナフサ等

五、福利施設 従業員ノ爲教育所及青年學校ヲ設ケ、従業員及家族ノ診療機關トシテ病院ヲ置キ、公傷病ニ因ル不具者ノ職業再教育ヲ行ヒ、共済組合ヲ組織シテ公傷病其ノ他ニ對スル給付、貯金部、貸付部ノ設置及購買部ニヨル日用品ノ廉價供給、産業報國會ヲ組織シテ會員相互ノ意思疏通ヲ圖ル外教育、體育、生活刷新、趣味娛樂其ノ他ノ福利事業ヲ爲シ、圖書館、人事相談所、集會所、大谷會館等ヲ開設シテ居ル。

輪西製鐵所

一、沿革 明治四十二年北海道炭礦汽船株式會社ガ噴火灣附近ノ砂鐵ヲ原料トシテ熔鑄爐作業ヲ開始シタガ創立ニケ月デ中止、更ニ大正二年末再ビ操業セル等ソノ經營組織上幾多ノ變遷ヲ經テ昭和六年十月輪西製鐵株式會社トナリ、昭和九年一月其ノ製鐵事業一切ヲ當社ニ於テ繼承シ爾後更ニ増産計畫ヲ樹立目下鉄鋼一貫作業設備ヲ建設中デアツタガ新工場第一熔鑄爐ハ昨年末完成作業ヲ開始シタ。

二、組織



三、作業概要 當所ハ熔鑛爐及其ノ附帶設備ヲ有シ、銑鐵ハ冷銑トシテ、販賣向ニ用ヒ、熔鑛爐「ガス」ハ汽罐及爐ノ燃料トシ「コークス爐ガス」ヨリハ「アンモニア」、「ベンゾール」、「クレオソート」油其他ノ副産物ヲ抽出スル。

四、主要製品及副産物

(イ) 主要製品 製鋼用銑、鑄物用銑

(ロ) 副産物

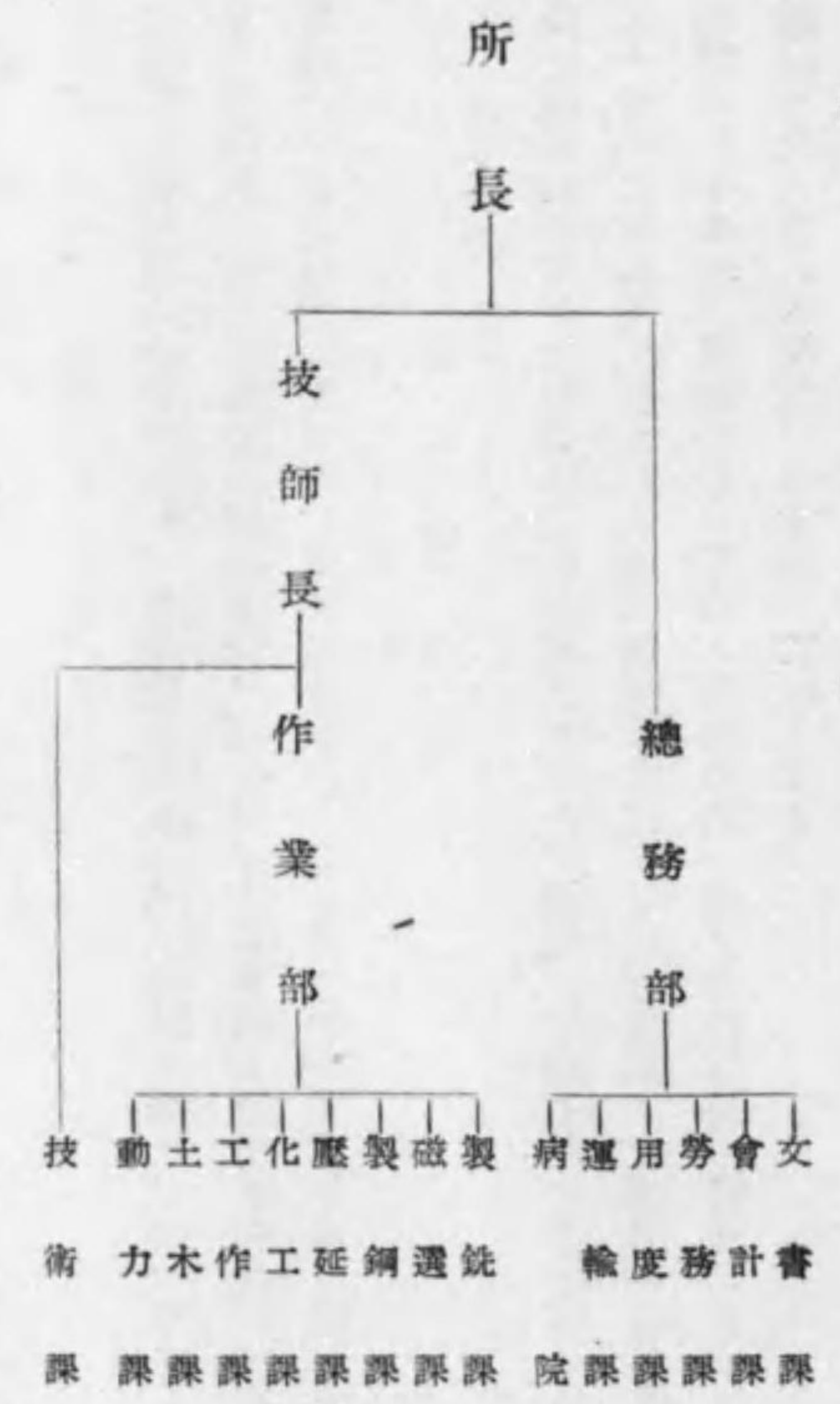
コークス爐 硫酸アンモニア、ピッチ、クレオソート油、アンストラシン、ナフタリン、ベンゾール、トルオール、ソルベントナフサ

五、福利施設 従業員ヘノ社宅貸與、青年工員教化ノタメ青年學校、従業員及其ノ家族ノ爲メノ病院、購買會ヲ設置シテ日用品ノ配給ヲ行ヒ、共濟會ヲ設ケテ諸給付ヲ爲シ、産業報國會ヲ組織シテ會員相互ノ意思疏通ヲ圖ル外、教養、體育、生活刷新、慰安其ノ他従業員ノ福利増進ヲ圖ル。

釜石製鐵所

一、沿革 享保十二年釜石鐵鑛石ノ發見アリ。明治初年ヨリ幾度カ鐵製鍊ノ舉ガアツタガ成功スルニ至ラズ其間種々ノ曲折ヲ經テ明治二十年釜石鑛山田中製鐵所ガ製鍊事業ヲハジメ、遂ニ明治三十六年壓延鋼材ノ製造ヲ開始、大正六年三月田中鑛山株式會社トナリ大正十三年七月三井ヘ其ノ經營ヲ移スト共ニ釜石鑛山株式會社ト改稱シタガ昭和九年一月當社ニ於テソノ製鐵事業一切ヲ繼承シタ。

二、組織



三、作業概要 當所ハ熔鑛爐、平爐、鋼材壓延機等所謂銑鋼一貫作業ノ設備ヲ有シ、銑鐵ノ一部ハ冷銑トシテ外部ニ賣却シ、又ハ社内工場ニ於テ之ヲ使用、大部分ハ熔銑ノ儘平爐ニ送り精鍊シテ鋼塊ヲ造リ之ヲ壓延シテ各種鋼材ヲ生産スル。

熔鑛爐ノ鑛滓(ノロ)ニテ鑛滓煉瓦ヲ造リ「コークス爐ガス」ヨリ「アンモニア」、「ベンゾール」、「クレオソート」油其他ノ副産物ヲ抽出シ「ガス」ハ燃料トシテ使用スル。

右ノ外電氣爐ニテ「フェロシリコン」及「フェロマンガ」ヲ製造スル。

四、主要製品及副産物

(イ) 主要製品

鉄 鋼 製鋼用鉄、鑄物用鉄

合金 鐵 珪素鐵、マンガン鐵

鋼 塊 普通鋼々塊

鋼 材 小形丸鋼、中小形山形鋼、平鋼、シートバー

(ロ) 副産物

硫酸アンモニア、粗製ベンゾール、タール

五、福利施設 従業員ニ社宅ヲ供シ、従業員及家族ノ爲メ病院ヲ置キ、娛樂慰安トシテ俱樂部、公園及運動場アリ、従業員ノ意思疏通並ニ福利共済ヲ圖ル爲メ産業報國眞道會ヲ組織シテ勞資一體ノ機關ヲ設ケ、同會購買部ニテ日用品ヲ分配スル。青年工員教化ノ爲メ青年學校及青年團ヲ設ケテ居ル。

富士製鋼所

一、沿革 大正六年末富士製鋼株式會社創立セラレ、鋼塊、鍛鑄鋼品及機械類ノ製作ニ着手シタガ、歐洲大戰後同十二年二月事業ヲ中止シタ。其後經營者代リテ工場設備ヲ改變同十四年壓延鋼材ノ生産ヲ開始、事業ヲ繼續シテキタガ、昭和九年一月其ノ製鐵事業一切ヲ當社ニ於テ繼承シタ。

二、組織 所長ノ下ニ事務課、作業課ノ二課ヲ置ク。

三、作業概要 當所ハ平爐、壓延機ノ設備ヲ有シ、屑鐵製鋼法ニ依リ、鋼塊ヲ造リ壓延シテ小形棒鋼ヲ造リ

又帶鋼ヲ造ル。

四、主要製品

鋼 塊 普通鋼々塊

鋼 材 丸鋼、八角鋼、平鋼、等邊山形鋼、帶鋼

五、福利施設 集會所、従業員會館及工員寄宿舎ヲ設ケ、産業報國會ヲ組織シテ會員相互ノ意思疏通ヲ圖ル外教養、生活刷新、體育、共済、貯金、購買、慰安其ノ他ノ福利事業ヲ同會ニテ遂行スル。

大阪製鐵所

一、沿革 大正四年大阪製鐵株式會社創立セラレ、同五年製鋼並ニ壓延作業ヲ開始シテ以來製鋼業ヲ持續シテ來タガ、昭和十一年五月同工場ノ設備一切ヲ當社ニ讓受ケタ。

二、組織



三、作業概要 當所ハ平爐、壓延機ヲ有シ屑鐵製鋼法ニ依リ鋼塊ヲ造リ之ヲ壓延シテ中小形棒鋼、形鋼及厚

鋼板ヲ造ル。

四、主要製品

鋼塊 普通鋼々塊

鋼材 丸鋼、平鋼、角鋼、等邊山形鋼、厚板

五、福利施設 購買會ヲ設ケ、日用品ヲ分配シ、從業員會館ヲ設ケ、産業報國會ヲ組織シテ會員相互ノ意思疏通ヲ圖ル外、教養、保健、福利、共濟、慰安其ノ他福利事業ヲ同會ニテ遂行スル。

廣畑製鐵所

一、沿革 當社創立直接ノ増産計畫ニ基キ銑鋼一貫作業工場トシテ昭和十二年七月兵庫縣飾磨郡廣村廣畑ニ新工場ヲ起工昭和十四年秋第一熔鑪爐ハ作業ヲ開始シ以來ソノ竣工セルモノヨリ逐次作業ヲ開始シテ居ル。

二、組織



三、作業概要 當所ハ熔鑪爐、平爐、鋼材壓延機等所謂銑鋼一貫作業ノ工場ノ規模ノ下ニ目下建設中ニ屬シ現在ハ熔鑪爐數基完成シ出銑作業ヲ行ツテキル。

四、主要製品

鐵 製鋼用銑、鑄物用銑

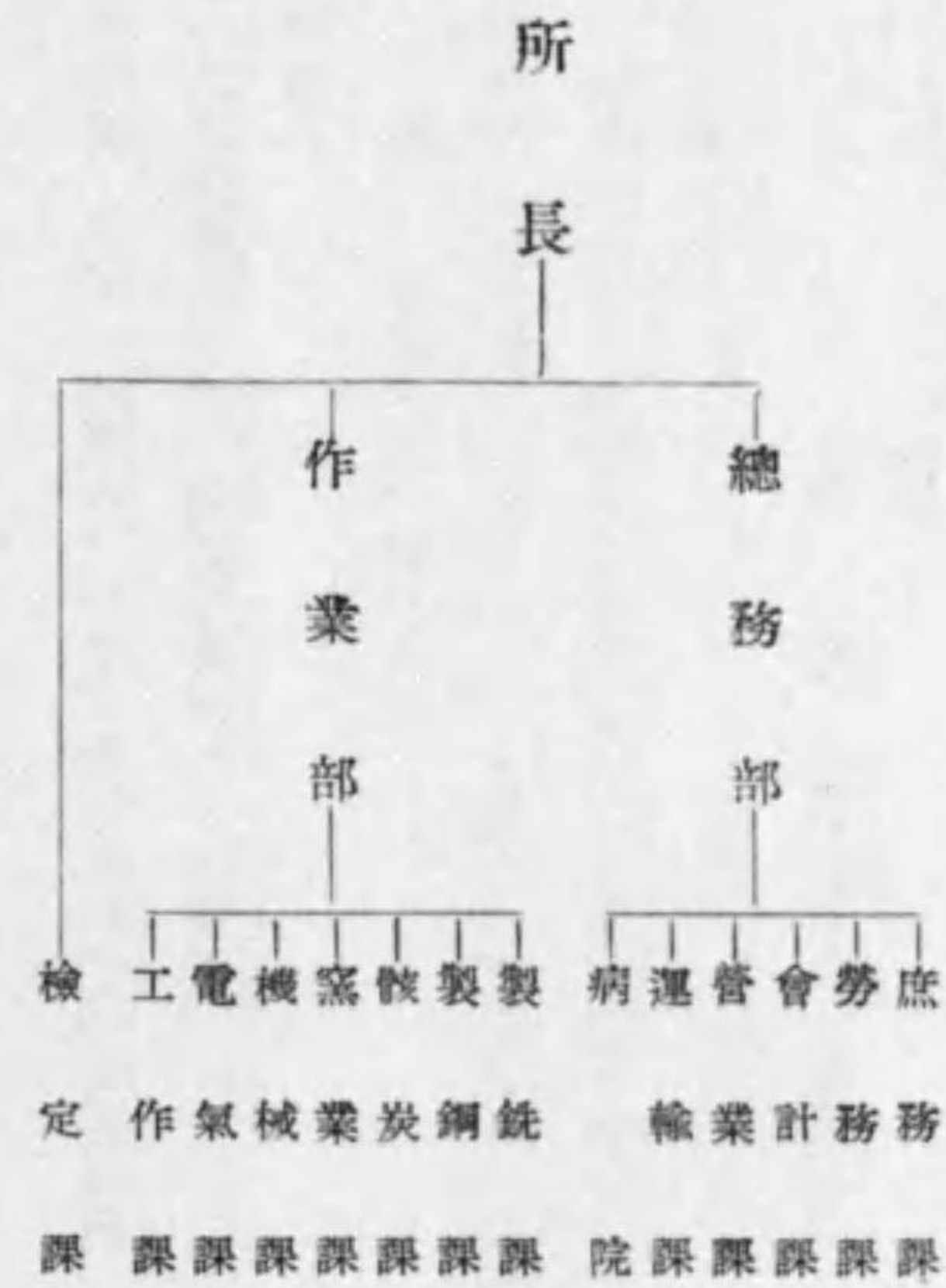
五、福利施設 從業員ニ社宅ヲ供シ、從業員及家族ノ爲ニ診療所ヲ設ケ、購買會ヲ設置シテ日用品ノ分配ヲ爲シ、産業報國會ヲ組織シテ會員相互ノ意思疏通ヲ圖ル外、生活刷新、教養、保健、體育、互助、慰安等ノ福利事業ヲ爲ス。

兼二浦製鐵所

一、沿革 三菱合資會社ハ大正四年臨時建設部ヲ朝鮮兼二浦ニ置キ、直ニ製鐵所建設工事ニ着手、同六年秋三菱製鐵株式會社設立セラレ大正七年熔鑪爐、翌八年製鋼及鋼材壓延作業ヲ開始シ、其後盛衰ハアツタガ、



昭和九年一月其ノ事業一切ヲ當社ニ於テ繼承シタ。
二、組織



三、作業概要 當所ハ熔鑛爐、平爐、壓延機等鉄鋼一貫作業ノ設備ヲ有シ鉄鑛ハ冷鉄トシテ外部ニ賣却スルモノノ外ハ、熔鉄ノ儘之ヲ平爐ニ送り、製鋼用ニ供シ鋼塊ノ一部ハ社内他工場ニ送り、其他ハ壓延シテ鋼材トスル。熔鑛爐「ガス」ハ燃料ニ供シ「コークス爐ガス」ヨリ「アンモニア」、「ベンゾール」其他ノ副産物ヲ抽出シ「ガス」ハ之ヲ燃料トシテ利用スル。

四、主要製品及副産物

(イ) 主要製品

鉄 鑛 製鋼用鉄、鑄物用鉄、特殊鑄物用鉄、低磷鉄
鋼 塊 普通鋼々塊
鋼 材 厚板、大形鋼

(ロ) 副産物

コークス爐 硫酸アンモニア、ピッチ、ナフタリン、タール、モーターベンゾール、ソルベント
副産物 ナフサ、煉炭

五、福利施設 従業員ニ社宅ヲ供シ、従業員及家族ノ爲ニ病院ヲ設ケ、日用品分配ノ爲供給所ヲ設置、産業報國會ヲ組織シテ會員相互ノ意思疏通ヲ圖ル外、教化、體育、慰安其ノ他ノ福利事業ヲ爲シ、職員ノ親和俱樂部、工員ノ共樂會俱樂部モ同會ニテ營ム。

清津製鐵所

- 一、沿革 當社創立直後ノ増産計畫ニ基キ鉄鋼一貫作業工場トシテ昭和十三年秋朝鮮咸鏡北道清津ニ新工場ヲ起工目下建設中ニ屬スルモノデ明年秋ソノ一部ノ完成ヲ俟ツテ作業開始ノ豫定デアル。
- 二、組織 所長ノ下ニ各擔當所員ガアリ建設ニ當ツテ居ル。
- 三、福利施設 従業員ニ社宅ヲ供シ、購買會ヲ設置シテ日用品ノ分配ヲ爲シ、産業報國會ヲ組織シテ會員相互ノ意思疏通ヲ圖ル外、教養、保健、體育、趣味、慰安等ノ福利事業ヲ爲ス。

八、日鐵鑛業株式會社

一、總 說

當社ハ社有鑛山ノ増産計畫ヲ實行スルト共ニ炭山、鑛山ノ買収、鑛業會社ヘノ投資等ニヨツテ増大スル原料ノ確保ヲ計ツテ來タガ其ノ急激ナル増産計畫ノ實現ニ伴ヒ原料ノ確保ハ愈々其ノ重要性ヲ加ヘ内地現行諸鑛山ノ能力擴張、未開發鑛區ノ開發ハ勿論、廣ク鮮滿支其ノ他海外ノ資源ノ獲得ニ對シテモ積極の方策ヲ講ズルヲ必要トスルニ至ツタノデ、昭和十四年五月二十日當社一手ノ出資ニヨツテ新ニ資本金五千萬圓ノ日鐵鑛業株式會社ヲ設立シテ從來會社ノ一部門デアツタ之等ノ事業ヲ專行セシムルコト、ナツタ。當社ハ其ノ所有諸鑛山炭山ヲ一括現物出資シ之ニ從事スル従業員ヲ引繼ギ更ニ同社ハ釜石、輪西兩鑛山株式會社所有ノ諸鑛山ヲ買収シテ之等ヲ統一的ニ經營シ引續キ増産擴張工事ヲ行ヒ兼ネテ内地、鮮滿支其ノ他海外ノ新資源ノ探究取得モ企圖スルコトナツタ。

斯ク日鐵鑛業株式會社ハ當社ノ純然タル分系會社デアツテ組織ハ異ルモ其ノ經營ハ一心同體デアリ相互ニ有機的連繫ノ下ニ所要原料ノ供給ヲ圖ラシメテ居ル。

二、組 織

一、役員ハ取締役十二名以内、監査役三名以内トシ、取締役會長ノ外專務取締役及常務取締役ヲ常任スル。現在ノ役員ハ左ノ通りデアル。

取締役會長	平 生 釺 三 郎
專務取締役	福 田 庸 雄
常務取締役	吉 田 健 三 郎
取締役	飯 田 九 州 雄

二、左記ノ通り本店、鑛業所及出張所ヲ置ク

本 店	東京市麴町區丸ノ内二丁目二十番地一	同	松 本 健 次 郎
二瀬鑛業所	福岡縣嘉穗郡穗波村	同	永 持 源 次 郎
釜石鑛業所	岩手縣上閉伊郡甲子村	同	兼 田 市 郎
俱知安鑛業所	北海道膽振國虻田郡東俱知安村	同	室 木 隆 三 郎
樺太鑛業所	樺太敷香郡泊岸村	同	中 松 貞 眞 郎
赤谷鑛業所	新潟縣北蒲原郡赤谷村	同	桑 山 貞 次 郎
价川鑛業所	朝鮮平安南道价川郡份川面	同	藤 田 俊 三 郎
北松鑛業所	長崎縣北松浦郡大野村	同	原 邦 道 三 郎
		同	橋 本 芳 雄

日滿鐵鋼販賣株式會社	第二鋼材販賣株式會社
東京市麴町區丸ノ内 二丁目二番地一 丸ビル内	東京市麴町區丸ノ内 二丁目二〇番地一 鐵鋼會館内
1,000,000	10,000,000
1,000,000	1,500,000
1,000,000	1,100,000
50	11
一、本會社特約者ノ鋼材ノ輸入及輸出ノ業務ヲ 二、本會社特約者ノ鋼材ノ加工及板金ノ業務ヲ 三、本會社特約者ノ鋼材ノ板金ノ業務ヲ 四、本會社特約者ノ鋼材ノ薄板ノ業務ヲ 五、本會社特約者ノ鋼材ノ中板ノ業務ヲ 六、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ 七、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ 八、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ 九、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ 十、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ	一、本會社特約者ノ鋼材ノ輸入及輸出ノ業務ヲ 二、本會社特約者ノ鋼材ノ加工及板金ノ業務ヲ 三、本會社特約者ノ鋼材ノ板金ノ業務ヲ 四、本會社特約者ノ鋼材ノ薄板ノ業務ヲ 五、本會社特約者ノ鋼材ノ中板ノ業務ヲ 六、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ 七、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ 八、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ 九、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ 十、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ

日本鋼材販賣株式會社	東洋鋼板株式會社	三和窯業株式會社
東京市麴町區丸ノ内 二丁目二〇番地一 鐵鋼會館内	大阪市北區 大正町一番地 大阪ビル内	東京市麴町區丸ノ内 二丁目二番地一 丸ビル内
10,000,000	1,500,000	1,000,000
1,500,000	1,100,000	1,500,000
7,110,000	3,240,000	日本煉瓦製造 1,000,000
11	15	100
一、本會社特約者ノ鋼材ノ輸入及輸出ノ業務ヲ 二、本會社特約者ノ鋼材ノ加工及板金ノ業務ヲ 三、本會社特約者ノ鋼材ノ板金ノ業務ヲ 四、本會社特約者ノ鋼材ノ薄板ノ業務ヲ 五、本會社特約者ノ鋼材ノ中板ノ業務ヲ 六、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ 七、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ 八、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ 九、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ 十、本會社特約者ノ鋼材ノ高級鋼板ノ業務ヲ	一、鋼板及其加工品 二、機械器具ノ製作 三、運送事業 四、前項事業並ニ之 五、前項事業並ニ之 六、前項事業並ニ之 七、前項事業並ニ之 八、前項事業並ニ之 九、前項事業並ニ之 十、前項事業並ニ之	一、耐火煉瓦及各種耐火材料 二、各種窯業 三、各種窯業 四、各種窯業 五、各種窯業 六、各種窯業 七、各種窯業 八、各種窯業 九、各種窯業 十、各種窯業

(5) 價格ノ安定ト需給ノ調整ヲ計ルコト。

(6) 生産割當ヲシテ、ソノ運用ヲ誤ラザル様常時製造業者ノ實情ヲ觀察スル制度ヲ設クルコト。
以上ノ如キ次官通牒ニ應ズルタメ三月廿六日鋼材聯合會デハ鐵鋼會館ニ於テ臨時委員會ヲ開催、審議ノ結果日本鋼材聯合會ハ改組擴充サレ鐵鋼統制ノ新態勢ニ即應スベキ日本鐵鋼聯合會ノ設立ヲミタノデアアル。

擬日本鐵鋼聯合會ノ從來ノ統制機關ト異ル點ハ先ヅ生産統制機構ニツイテハ之マデ不完全デアツタ生産統制ヲ強化シ製鋼原料ノ確保並ニ配給ノ適正ヲ圖ルタメ製鋼主要原料タル屑鐵、合金鐵、銑鐵ニ關スル各統制機關タル日本鐵屑統制會社、屑鐵共同販賣會社、日本フェロアロイ協議會、日滿鐵鋼販賣會社、日本銑鐵協議會ヲ會員トシテ參加セシメルト共ニ原料部會ヲ設ケテ、原料配給統制ノ衝ニ當ラシメタ點及ビコレヲ基礎トスル製品ノ統制モノノ範圍ヲ擴大シ從來ノ普通鋼々塊、普通鋼壓延鋼材ノ外ニ特殊鋼、鑄鋼、鍛鋼ヲモ包含サレタ。從ツテ之ニ關係アル特殊鋼協議會、日本鑄鋼協議會、鍛鋼協議會ヲ傘下ニ入レルニ至ツタノデアリ、更ニ販賣會社ト密接ナル連絡ヲトルタメ、日本鋼材販賣、第二鋼材販賣、日本鋼管販賣ノ三販賣會社ヲ會員トシテコレヲ統合シ、カクシテ從來見ラレナカツタ鐵鋼ニ關スル綜合的統制機關トナルニ至ツタノデアアル。
以上ノ如ク、改組擴充サレタ統制機構ノ運用ヲ完全ナラシメタルタメニ、ソノ人的組織ヲモ強化サレタ。即チ從來ノ委員長制ヲ會長、副會長制ニ改メ常務委員會ノ權限ヲ擴充強化シテ會ノ中樞機關トナシ、更ニ新タニ會長ヲ補佐スルタメニ常任幹事制ヲ設ケ、又事務局ヲ擴充シテ統制強化ノ實ヲ擧ゲントシタ事デアアル。以上ノ如ク改組サレタ所以ハ已ニ明カデアアル通り、從來ノ鐵鋼統制機關デ果シ得ナカツタ鐵鋼ノ生産、配給、消費ノ全般ニ亘ツテ計畫ノ萬全ヲ期スルタメ及ビソノ機構ニ法的根據ヲ附與シ、又昭和十三年七月以來實施中ノ鐵鋼切符制度ノ改善ヲハカルタメ、從來ノ配給消費ノミヲ中心トシタ「鐵鋼配給統制規則」ヲ廢止シ、

新シク制定サレタ「鐵鋼需給統制規則」ニ適合スル様整備スルニアツタノデアアル。

然ラバ今回ノ新規則ニヨリ擴大強化サルベキ分野ハドウイフ事ニナツタカト言フニ大體次ノ如クデアアル。

(1) 統制適用品ノ範圍擴大

從來統制適用品目デアツタ銑鐵、鑄鐵管、壓延鋼材ノ外ニ鋼塊、壓延鋼片、シートバー、ティンバ
1、スケルプヲ包含スルコト。

(2) 生産部門ノ統制ニ對スル法的根據ヲ附與。

生産統制ニ對スル政府ノ代行機關ト化シタ當聯合會ニヨル生産割當ノ立案ハ常務委員及び幹事ニヨ
ツテ行ハレ商工大臣ノ承認ヲ受ケ、ソノ生産實行ニ當ツテハ、一定ノ過不足ノ許容率ヲ認メルコト。
從ツテ當局ハ自由ニ生産統制ヲナシ得、重點主義ニヨル生産割當モ可能ニナツタコト。

(3) メーカーノ製品ハ配給統制機關即チ販賣統制機關ガ完全ニ買取ル様ニナツタコト。

例ヘバ軍機ノ秘密確保ニ必要ナ場合等ノ外配給統制機關トシテ指定サレタ日滿鐵鋼販賣、日本鋼材
販賣、第二鋼材販賣、日本鋼管販賣ノ各社以外ノ者ハ製鐵業者ヨリ、ソノ鐵鋼ヲ買受ルコトヲ得ナイ。

(4) メーカーノ自家用消費ヲ嚴重ニ取締リ又ハ制限シタコト。

(5) 從來ノ切符制ノ不備ガ補強サレタコト。

(イ) 配給統制ヲ一段ト強化シ從來切符ヲ必要トシナカツタ官廳及ビ公共團體ノ需要モ今後ハ切符ヲ必
要トスル。

(ロ) 從來切符發行權ヲ持ツテキタ公共團體ノ分ハ凡テ地方長官ガコレヲ發行スルコトトナツタ。

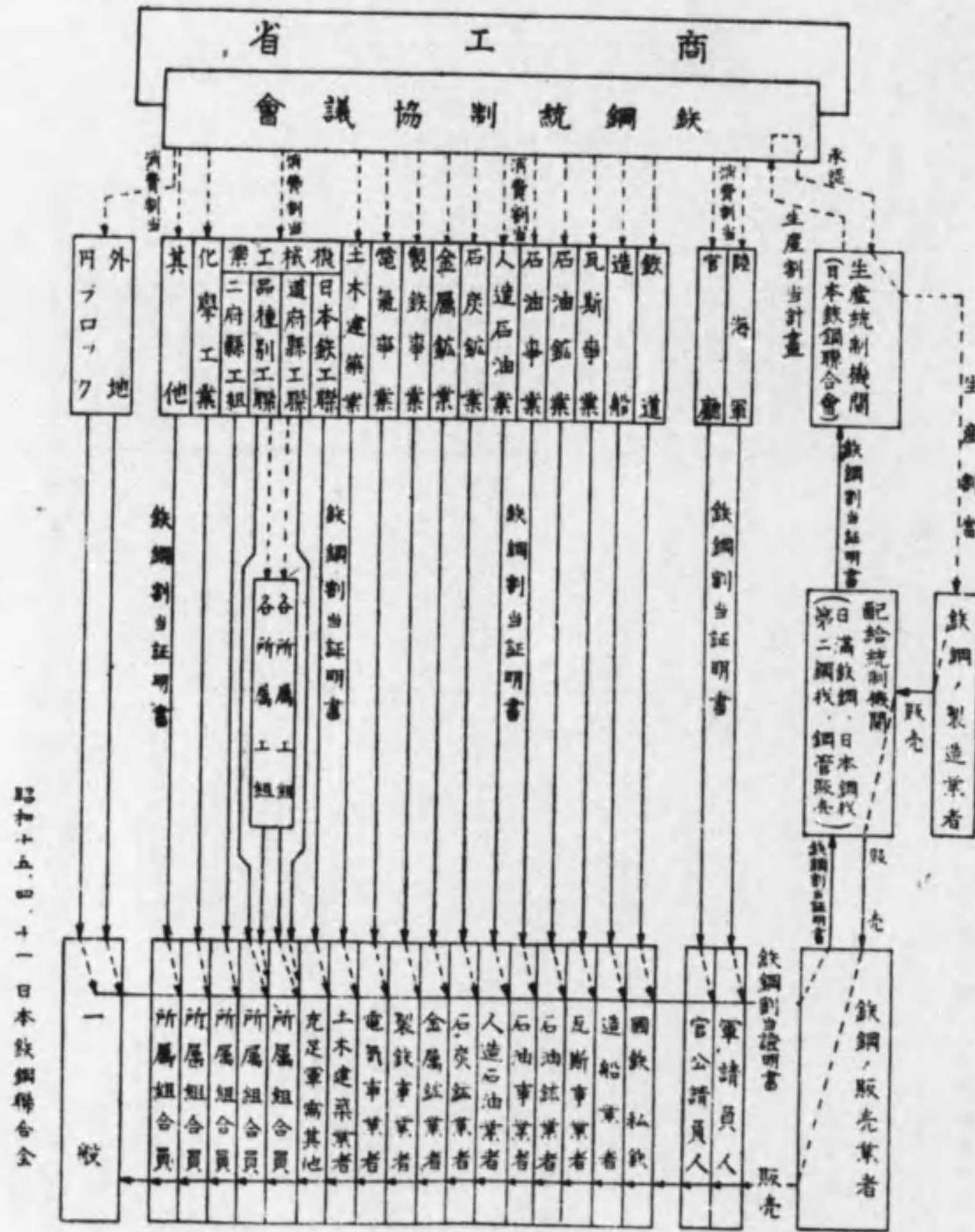
(ハ) 正副二通カラナツテキタ切符ヲ一通トシタ。

- (ニ) 請負業者が注文者から切符ヲ受理シタ時從來ハ、更ニソノ統制團體カラ切符ノ交付ヲ受ケネバナ
ラナカッタガ、今後ハソノ必要ナク單ニソノ證印ノ押捺ヲ受ケルダケデヨイコト、ナツタ。
 - (ホ) 從來切符ノフォームガ一定セザルタメ種々ノ不都合ヲ生ジタノデ之ヲ一定ニシタ。
 - (ヘ) 切符ノ發行報告ヲ聯合會ニ提示セシメ以テ切符發行ノ嚴密性ヲ保持シタ。
 - (6) 統制規定ヲ擴大シタコト。
 - (7) 報告規定ヲ充實シタコト。
- 尙左ニ之ヲ圖ニテ示セバ、

- (一) 生産統制機關タル日本鐵鋼聯合會ハ、ソノ立案セル生産割當ヲ商工省ニ提示シテ (A₁) ソノ承認ヲ求
メ (A₂) 承認ヲ得タル時ハ、コレヲメーカーニ割當テル (A₃)。メーカーハソノ製品ヲ凡テ配給統制機關タ
ル日本鋼材販賣、第二鋼材販賣、日滿鐵鋼販賣、日本鋼管販賣ノ四社ノ中ノ何レカニ販賣シ (A₄) 配給統制
機關ハ、コレヲ販賣業者ヲ通ジテ (A₅) 請負人乃至實需家ニ販賣スル (A₆)。
- (二) 販賣業者ハ、配給統制機關ニ販賣報告ヲナシ (A₇) マタ配給統制機關ハ配給報告ヲ (A₈) メーカーハ
生産報告ヲ (A₉) 何レモ聯合會ニ提出シ、最後ニ聯合會ハ此等諸報告書ノ概要ヲ商工大臣ニ報告スルコトニ
ナツテキル。 (A₁₀)。
- (三) 商工省ハ消費割當ヲ聯合會ニ指示シ (B₁) 聯合會ハ、コレニ基イテ、鐵鋼使用承認書ヲ發行シテコレ
ヲメーカーニ交付スル。 (B₂) メーカーハ、コノ鐵鋼使用承認書ニ定ムル鐵鋼ノ種類別數量ヲ超エ、ソノ製
造シタル鐵鋼ヲ使用スルコトハ出來ナイ。一方商工省ノ消費割當ハ、官廳又ハ需要統制機關ニモ指示サレ
(B₃) 官廳又ハ需要統制機關ハコノ消費割當ニ基イテ鐵鋼切符ヲ發行シテコレヲ實需家ニ交付スル (B₄)。實

- 需家ハコノ切符ヲ販賣業者ニ提出シコレト引換ニ鐵鋼ヲ購入スル (B₅)。販賣業者ハ、コノ切符ヲ配給統制機
關ニ提出シ (B₆) 配給統制機關ハコノ切符ヲ聯合會ニ提出スル (B₇)、マタ官廳若クハ需要統制機關ハソノ切
符ノ發行報告ヲ聯合會ニ提出スル (B₈)。
- (四) 請負人ガ「鐵鋼ヲ使用スル作業又ハ工事ヲ請負ヒタル」時ハ、先ヅソノ注文者 (實需家又ハ官廳) カ
ラ切符ノ交付ヲ受ケ、 (C₁) コレヲ需要統制機關ニ提示シ (C₂) コレニソノ證印ノ押捺ヲウケ (C₃)、コレヲ販
賣業者ニ交付シ (C₄) ソレト引換ニ鐵鋼ヲ購入スル。

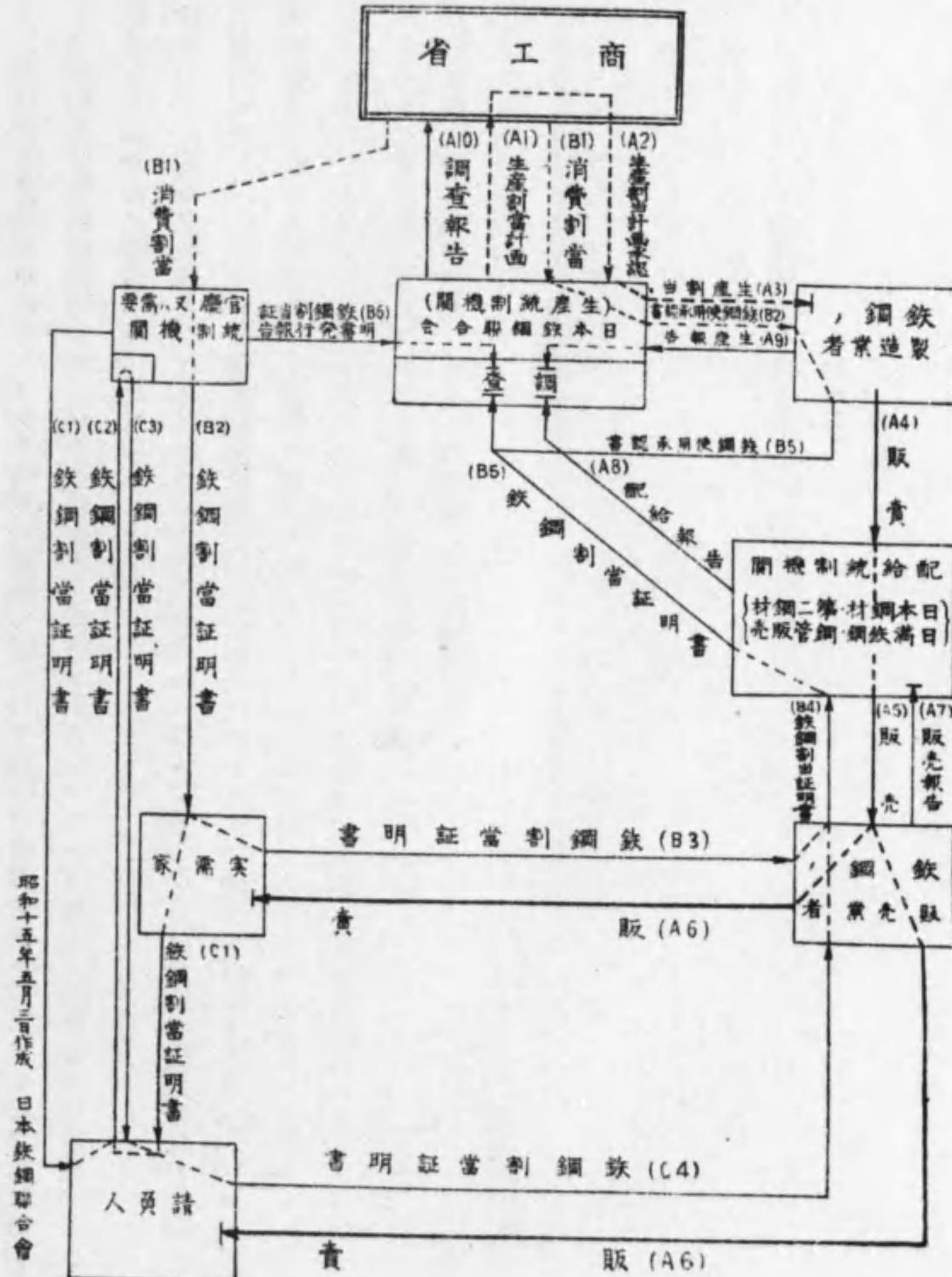
圖略構機制統給需鋼鐵



昭和十五年四月十一日日本鐵鋼聯合會

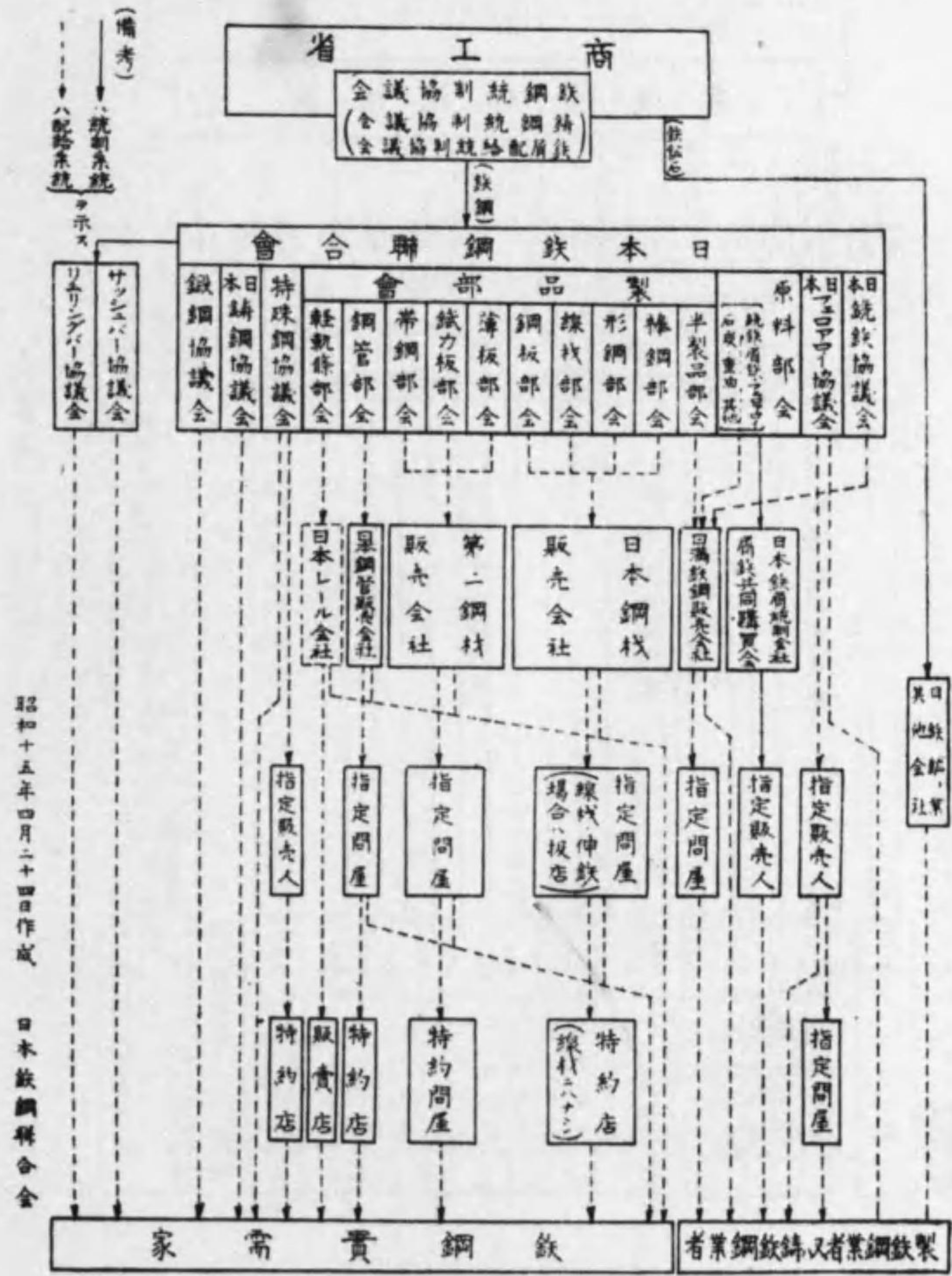


解圖則規制統給需鋼鐵



昭和十五年五月廿作成 日本鐵鋼聯合會

鐵鋼配給統制系統略圖



昭和十五年十二月二十五日印刷
昭和十五年十二月二十八日發行

(非賣品)

編輯者兼發行者 齋藤憲吉
東京市小石川區小日向臺町三丁目八十三番地

印刷人 北川武之輔
東京市京橋區銀座四丁目四番地七

印刷所 株式會社 細川活版所
東京市京橋區銀座四丁目四番地七

發行所 東京市麴町區丸ノ内二丁目二十番地一
日本製鐵株式會社

912
104



912
104

終